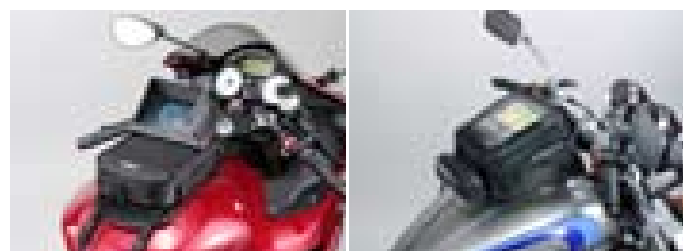




1.2.ナビ収納部はバッグ上面、ライダー側寄りに本体を置いてサンシェード部高くできる「アッパー」位置と、メーターの近くに本体を置く「フロント」位置の2ポジションが選べる。ナビ収納部には振動を軽減する専用クッションを内蔵 3.回転機能付きのスライダーベルトを装備し、ナビ本体の角度を変更可能。無段階に固定できるため、画面の微妙な角度調整がしやすい。取り付けはマグネット固定式だが、別売りのリアベルトで樹脂製タンクカバーにも装着可能 4.ナビをクリアケースに入れて収納するほか、ツーリングマップルとも併用できる「マップ&ナビバッグ」(7875円)も併売。クリア部は一般の塩ビ素材ではなく、ナビ画面の色移行を防ぐ特殊素材を採用

ナビ×タンクバッグの先駆けたるMotoFizz開発履歴

ポータブルナビ「コロンプス」を発売されたのは約15年前。タナックスはバイクにナビを積載する方法をメーカーから依頼されていた。ただ、4輪に比べてバイクへの積載はハードルが高かった。雨天の防水対策のほか、耐振動、耐塵、耐熱、さらに日光の角度により、画面が見づらくなるなど。しかし、試作から実験を繰り返し、約2年の月日をかけて世界初のナビ搭載バッグMV-1を開発。ここではタナックスがナビ搭載バッグを進化させた歴史を紹介しよう。



MV-5

2008年、前年発売されたポケットナビバッグがマグネット式で、樹脂製タンクバッグに対応させるためベルト装着式を追加。名称は「ポケットナビバッグ2」となった

MV-3

2004年、「バンドシステム用ナビバッグ」と商品名を一新。樹脂製タンクカバーに対応するため、タンクキャップにアタッチメントを取り付けるバンドシステムを採用した



MV-1

1997年、ソニーの「コロンプス」専用開発された世界初のナビ搭載タンクバッグ。ナビの重量に耐えられるようベルト取り付け式を採用

MV-4

2007年、CD-ROM式からメモリー式になってコンパクトになったナビに合わせて、コンパクト化。ナビ収納部の角度調整機能などが追加された



MV-2

2000年、ナビの取り付けステーを新設計し、パナソニックやサンヨー製など各社の積載に対応させた

4 輪用ポータブルナビの販売とともに、バイクにもナビが搭載される時代がきつと来る。4輪用のポータブルナビゲーションシステムが試乗に登場し、まだ4輪でも装着している車両が珍しかった頃から「モトフィズ」ブランドを展開するタナックスは時代の先を見通していた。モトフィズブランドは、バイクに装着するバッグの国内トップシェアを誇り、80年代のバイクブームの頃から、同社のタンクバッグはツーリングに欠かせないアイテムとして広く知られている。ある家電メーカーから「4輪用のポータブルナビゲーションシステムが、タンクバッグに搭載することでバイクに転用できないだろうか」と相談を受けたのも当然の成り行きだろう。

ただ、タンクバッグにナビのスペースを確保するだけでは製品化することはできない。4輪用のナビは動く室内ともいえる車内で使用することを前提に製品化されていて、バイクでの使用に必要な防水性能や耐振動性など、様々な問題をクリアする必要があった。その困難な問題をトライ&エラーを繰り返すことで克服し、ついにナビ搭載タンクバッグの商品化に成功。最新のMV・06ナビゲーションタンクバッグ3のリリースまでに、実に13年の歳月と5回のモデルチェンジを実施。ナビの進化とともに進化したMV・06は、ナビを搭載できるタンクバッグとして、ライバルの追従を許さないほどの完成度を得た。もし、4輪用のナビを併用したいと考えているなら、MV・06がイチオシだ。

パイオニアだから
ここまでマッチする



Moto Fizz NAVIGATION TANK BAG3MV-06

価格:1万2600円 カラー:ブラック
問:タナックス
TEL04-7150-2450
<http://www.tanax.co.jp/>